

5 結果

本試験の結果、陽性対照の細胞生存率は、41.4%であり 50%未満であること、陰性対照における MTT の抽出溶媒の OD₅₇₀ は 1.425 であり 0.8 より大きくかつ 2.8 未満であったこと、また、試験試料の細胞生存率の差は、被験物質：7.1%、6.1%、陽性対照：5.4%、陰性対照：2.5%であり 全て 20%未満であったことから、本試験が 4.5 に示した試験許容基準を満たしていることが確認された。

Table 2 に被験物質の細胞生存率を示した。両被験物質の細胞生存率が 60%よりも高かったことから、被験物質「フムスソリュート NWC (フムスエキス)」および「フムスソリュート NWC (フムスエキス) 20%水溶液」の眼粘膜刺激性は無刺激性と判定された。

Table 2 被験物質の細胞生存率

物質名	細胞生存率 (%)	生存率の差 (%)	区分
陰性対照 (滅菌蒸留水)	100.0	2.5	-
陽性対照 (酢酸メチル)	41.4	5.4	刺激性
フムスソリュートNWC (フムスエキス)	102.4	7.1	無刺激性
フムスソリュートNWC (フムスエキス) 20%水溶液	100.0	6.1	無刺激性

n = 2

6 試験資料の保管

試験報告書は、正本を試験依頼者に提出し、副本(複写)を試験実施機関にて保管する。また、試験実施機関における保管期間は5年間とする。

7 参考資料

- 1) OECD, (2019) Guideline for the testing of chemicals, Guideline 492: Reconstructed human Cornea-like Epithelium (RhCE) test method for identifying chemicals not requiring classification and labelling for eye irritation or serious eye damage.
- 2) EpiOcular™ SOP, EpiOcular™ eye irritation test (OCL-200-EIT), For the prediction of acute ocular irritation of chemicals, For use with MatTek Corporation's reconstructed human EpiOcular™ model.
- 3) 日本化粧品工業連合会編, (2015) 化粧品の安全性評価に関する指針 2015、39~41、薬事日報社、東京.